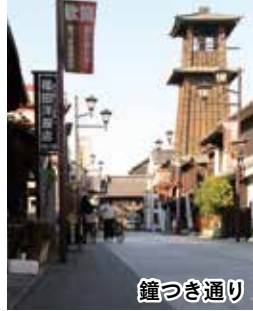


歴史まち歩き

川越の城下町の整備が本格化したのは、寛永15年(1638)の大火の翌年、藩主となった松平信綱により実施された城下の町割り整備に始まったと言われています。その町割りが今に伝わる旧市街地は、歴史に培われた蔵造りの町並みをはじめ、江戸・明治・大正・昭和の歴史的建造物がそれぞれの時代の流行の意匠を身にまとい、見る人の目を楽しませてくれます。

また、喜多院や蓮馨寺界限などの寺社門前のにぎわいは、祭り・お茶会・縁日などの行事や花見・憩いの場といった空間として今も続いています。そして、歴史が息づく、さまざまな場をつなぐ道は、それぞれの通りに合ったデザインとなっています。

例えば、鐘つき通りは、歩道を黒系統の石張りとし、車道との違いを明示するとともに、重厚な町並みとの調和を図っています。また、菓子屋横丁通りでは、横丁



鐘つき通り



ガラスブロック

の代表的な菓子である飴をイメージしたガラスブロックを埋め込んでいます。市内には、このように町並みに溶け込んだ「道」が存在します。新しい「道」を探しに、まち歩きに出かけてみてはいかがでしょうか。

川越 Farmer's Market



農政課 224-5939

昨年の夏に始まったイベント「川越 Farmer's Market」。

蓮馨寺で、地元農業者による川越産農産物の販売のほか、地元商業者による料理や加工品の販売、音楽演奏など、さまざまな催しが行われています。

同実行委員会委員長の石川真さんがイベントを始めたきっかけは「もっと街に出ていきたい」という農家さんの一言。もともとまちづくりの支援に携わっていた経験から、農と商をつなぐことで川越を盛り上げていきたいと考えたそうです。「買って終わりではなく、ずっと居たいと思えるような居心地の良い空間を作りたい」と石川さんは語

ります。

1月31日(日)にウエスタ川越で開催される「小江戸川越 農産物と食のまつり『川越シェフと川越産を食べよう!』」

にも参加します。川越産農産物と共に、おいしいひと時を過ごしてみませんか。

* 同イベントについて詳しくは、12月25日発行の広報川越 No.1357・10ページをご確認ください。



昨年開催された Farmer's Market の様子

この時期に市内の直売所などで購入できる主な川越産野菜

ホウレンソウ、ニンジン、小松菜、白菜、ブロッコリー、サトイモ、ダイコン、長ネギ、キャベツ、カブ、ゴボウ



お面は3年生の自作

は、足踊りを学んだ3年生たちが、保存会の皆さんを前に、練習の成果を披露しました。

米作りに関する交流が特色の同校。田植えなどの農体験のほか、かかし作りや南田島の足踊りなど、地域の伝統文化を学習します。この日は、足踊りを学んだ3年生たちが、保存会の皆さんを前に、練習の成果を披露しました。



米

作り

つのが重そうな1年生に手を添えたり、ついた餅を丸めたりと、保護者や地域の皆さんと一緒にな



は、杵を持

会。餅をつくのは主に5年生までの子どもたちです。6年生は、杵を持

編集後記 ぐんぐん